

## 編集後記

二〇一三年六月より、教父研究会の運営体制が一新されました。運営委員であった荒井洋一氏と土橋茂樹氏が退任され、柴田有氏・出村和彦氏・水落健治氏・宮本久雄氏に加え、新たに、上村直樹氏・高橋英海氏・村上寛氏、そして山本芳久が理事として就任し、新会長として、出村和彦氏が選任されました。また、事務局は、中央大学から東京大学（駒場）に移動し、幹事である袴田渉氏・袴田玲氏・坂田奈々絵氏とともに、会計監査として高橋雅人氏が加わることとなりました。長らくお世話くださった荒井洋一氏と土橋茂樹氏に、この場を借りてあらためて御礼申し上げます。また、前事務局の構成員であった田子多津子氏・佐藤真基子氏・北川恵氏・田内千里氏・海老原晴香氏にも御礼申し上げます。

『パトリスティカ』第17号は、ギリシア教父の代表者の一人である偽ディオニシウスとラテン教父の代表者の一人であるアウグスティヌスについての豊かな論考がバランスよく掲載されるとともに、中世スコラ学の代表者であるトマス・アケイナスについての論考も加わることになりました。ギリシア・ラテン教父についての我が国における豊かな研究の蓄積をあらためて自覚させる内容であるとともに、狭義の教父研究のみではなく、中世スコラ学や近代の神秘思想にまで開かれた仕方で運営されていくこととなる今後の教父研究会の一層豊かな発展を予感させるものとなっています。

なお、前号に引き続き、教友社の御協力のもとに、厳しい出版状況のなかで『パトリスティカ』の出版が可能になりましたことを、末筆ながら、感謝の念とともに御報告させていただきます。

（編集担当理事 山本芳久）